



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 29 年 8 月 28 日

第 25 号

市高生の爽やかな行動が感動を呼ぶ ～いただいた電話から～

8月7日(月)の朝、一本の電話をいただきました。電話の内容は、その前日、その方が、本校女子バスケットボール部の生徒たちとたまたまバスに乗り合わせたときのことです。

部員たちがそのバスに乗車する時に、一人ひとりがバスの運転手さんに「お願いします」と爽やかにあいさつし、整然と奥の座席から詰めて着席。ご高齢の方への気遣いもあり、降りる際には、その方がかけてくださった「練習頑張って」という声に、部員たちが「ありがとうございます」と笑顔で応え、その様子が実に清々しく、バスの車内がとてもよい雰囲気に包まれたとのこと。とかく高校生の乗車マナーについては問題があると思っていた中、たいへん感動されたそうです。日ごろの本校の教育と指導の賜物であるとお言葉までいただきました。

その時、昨年9月にいただいた葉書のことをふと思い出しました。昨年9月の初め、本校サッカー一部が、残暑の厳しい中、台風で本校裏手の鶴見川遊歩道に残された流木等の粗大ゴミを片付けている姿を見かけ、声をかけてくださった地域の方からの感謝の葉書です(本校HP「校長室の窓から(第16号)」に掲載)。その葉書には、本校サッカー部の行動を称えてくださったばかりか「このような生徒が在籍している市ケ尾高校を地域住民として誇りに思います。この生徒たちが将来の日本を背負ってくれると思うと、元気をもらい、清々しい気持ちになりました。」とまで書かれていました。「社会の中核たる人材の育成」を掲げる本校にとってもこのうえないお言葉で、本当に嬉しい限りです。

爽やかなあいさつ、明るい笑顔、さりげない気遣い、そして、人のために行動ができる姿に「市高生らしさ」を感じます。

そして、これからの社会を担う市高生の皆さんには、「人に感動を与えられる人間」であってほしいと願うとともに、今回のお二人のように、「感動を伝えることができる人間」であってほしいと思います。



花壇の立札が完成!

本校の自慢の花壇のもう一つの見所は、テーマとメッセージが込められた「立札」。毎回力作揃い。今回の立札も「ちぎり絵」で作られた力作です。PTA 環境委員の皆様、いつもありがとうございます。

「まちの未来づくりプログラム」が本格始動!

6月に募集した「まちの未来づくりプログラム」(市ケ尾ユースプロジェクト)で、現在10名(1年生、2年生各5名)の本校生徒が活動しています。この取組の概要については6月の「校長室の窓から(第23号)」に詳しく掲載しましたが、市高生が地域の課題解決や魅力アップにチャレンジできる取組で、昨年からの約1年間をかけて青葉区役所や今回の取組をコーディネートしてくださるNPO法人「まちと学校のみらい」、市ケ尾中学校等と練り上げてきたものです。青葉区には、社会で活躍した豊かな経験を持つ方がたくさんいらっしゃいます。そんな大人の方たちをサポートとして、市高生と市ケ尾中学校の生徒が市ケ尾のまちづくりや魅力アップに向けてアイデアを具体的な企画にし、実現するという取組です。本校では、地域課題解決型キャリア教育及び生徒活動の一環として位置づけていますが、都市部進学校のコミュニティ・スクールの取組として、すでに全国的に注目され始めています。

募集に際しては、6月2日(金)に妹尾昌俊さん(教育研究家、学校マネジメントコンサルタント、文部科学省学校業務改善アドバイザー)を本校にお招きし、「新しい時代に必要となるソーシャルイノベーション～社会の変化を知り、社会の課題に立ち向かい、社会をつくる方法を学ぼう～」という題でキャリアアップ講演会を開催。これから必要とされる「ソーシャルイノベーション」やこれからの時代に求められる力、このプロジェクトの背景やねらい等について学びました。

では、なぜ本校がこのプログラムに取り組もうとしているのか。それは、本校生徒が、これからの予測が難しい時代に、多様な人々と学び、働きながら、主体的に社会や世界と関わり、よりよい人生を切り開いていくために必要な力を身に付けるためには、学びのフィールドを社会に広げ、優れたプログラムを通して実際に体験することが非常に効果的だからです。

今回は、これまでの主な活動、7月12日(水)の中高生合同オリエンテーション(青葉公会堂)、8月3日(木)、8月23日(水)に行われた企画のためのワークショップ(市ケ尾高校)について紹介します。

中高生合同オリエンテーション(7月12日)

本校生徒(10名)と市ケ尾中学校の生徒(17名)の初めての顔合わせ。初めのうちは両者ともにやや緊張気味でしたが、本校生徒のさりげない気遣いですぐに打ち解けることができました。この日は、まず、ファシリテーターの妹尾昌俊さんが、「まちの未来づくりプログラム(市ケ尾ユースプロジェクト)のススメ」と題して、とてもわかりやすくこのプロジェクトの背景とねらいを説明。その中では、世の中を変えること、社会課題に立ち向かうこと(ソーシャルイノベーション)に果敢に挑戦している人やそのワクワク感にも触れられました。続いて、青葉区役所区政推進課の方か



中高生合同オリエンテーション
青葉区の小池区長自ら、今回のプロジェクトにかかる思いを語り、参加する中高生にエールを送ってくださいました。

祝 ダンス部が快挙！日本高校ダンス部選手権にて「ストリートダンス協会賞」を受賞！

ら「青葉区のまちづくりの現状」について、さらに、東京急行電鉄株式会社（東急電鉄）都市創造部の方から同社が進める「次世代郊外まちづくり」についての説明。青葉区の開発の歴史や現状と課題、そして、将来構想等について



中高生がこのプロジェクトで大切にしたいことを思い思いに付箋に書いてシェア

ることにより、生徒たちにとっては何気なく毎日通っている地域がより身近な存在になったとともに、改めて地域の課題を認識する機会となりました。その後、中高生の自己紹介とこのプロジェクトに向けたそれぞれの抱負、まちの「今」について日ごろ感じていること、この取組で大切にしたいことなどをシェア。主体的に参加しているだけに、中高生ともに意識の高さを感じました。何とこの日は、会場に青葉区の小池区長もお見えになり、中高生にエールを送ってくださり、中高生にとっては実に刺激的な時間でした。

ワークショップ（8月3日・8月23日）

8月3日（木）のワークショップでは、初めて中高生と地域のサポーターの方々一堂に会しました。サポーターの皆さんは、この日に向けてすでに2回のワークショップを行い、よりよいサポートに向けて準備を進めてきました。

まずは、全体でプロジェクトの背景やねらいを共有。その後、地域の活性化に長年携わっていらっしゃる地域商店の方から話を聞きました。さらに、地域のサポーターの方と中高生に分かれ、サポーターの皆さんは、中高生合同オリエンテーションで中高生がすでに学んでいる「青葉区のまちづくりの現状」や「次世代郊外まちづくり」について理解を深め、その間、中高生は、宿題のワークシートを基にアイデアを出し合いました。

続いて、いよいよ中高生とサポーターの皆さんがグループを作っての企画づくり。膝にのせた丸型ホワイトボードにどんどんアイデアを書き込んだり、付箋を貼ったりしていきます。中高生の話をサポーターの方々が熱心に聞いてくださり時折アドバイス。中高生の皆さんは、学校だけでは学ぶことのできない貴重な学びをたくさん得たことと思います。

この日の様子は、地域のテレビやラジオで放映され、地域の情報誌にも掲載されました。

8月23日（水）のワークショップでは、前回のワークショップで5つに分かれて進んでいる企画をさらに深めました。今後は、月1回程度の活動を通してそれぞれの企画を形にしていきます。11月には中間発表、3月には最終報告が予定されています。本校でも、参加者からの最終報告を全生徒で共有したいと考えています。皆さん、楽しみにしててください。



ワークショップ（8月3日）
市ヶ尾のまちの活性化に長年携わっていらっしゃる地域商店の方が、これまでの取組を様々なエピソードを交えて話してくださいました。



ワークショップ（8月23日）
8月3日のワークショップに引き続き、丸いホワイトボードを囲んでグループの企画をさらに深めました。

本校ダンス部が、8月17日（木）にパシフィコ横浜・国立大ホールで行われた「第10回日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会・ビッグクラス」で見事「ストリートダンス協会賞」を受賞しました。「日本高校ダンス部選手権」は、別名「DANCE STADIUM」（ダンススタジアム）ともいわれ、特に「夏の公式全国大会」（通称「夏高ダンス」）は、高校ダンス部日本一を決める、まさに「ダンスの甲子園」。全国7地区の大会を勝ち抜いた55校がダンスを競い合い、受賞できるのは12校。本校ダンス部は2年ぶり4回目の出場で、初めての受賞です。「ストリートダンス協会賞」は、最もグルーブ感（音楽に対してのノリ）に優れたチームに贈られる賞で、講評では、「笑顔」と「テーマに沿った一体感のある演技」が最も印象的だったと高い評価。セレクションをせず、2年生の部員34名全員で臨んだ本校ダンス部にとっては何よりの言葉だったと思います。

今回の本校ダンス部のテーマは「水兵さん」。衣装も考えに考え抜いて作り上げられ、ハの字に並んで敬礼をしながら順々に向きを変える演技は、前が白、後ろが水色のズボンの色がそれに合わせて白から水色、水色から白に変化し、それが波のように見えて圧巻。その他、効果音に加え、船や波、舵などを人の配置で工夫したりするなど、海のイメージを醸し出す様々な工夫が凝らされています。

今回の受賞に当たり、8月25日（金）、練習を終えた部長と二人の副部長に校長室で話を聞きました。受賞が発表されたときにまず頭に浮かんだのは、練習場所に配慮してくれた応援団やずっと支援してくれた先輩や後輩、保護者の皆様、先生方への感謝の気持ちだったと部長の三坂さん。副部長の桑田さん、山本さんは、これまで培われてきた本校ダンス部の「作風」が認められたことや、春の大会で思うような結果が得られなかったけれども決して目標を下げずに全国大会を目指し続け、その結果、大好きな作品が認められたことへの喜びを、満面の笑みで語ってくれました。

厳しい練習は勿論、よりよい作品にするために何度も何度も作品をつくりかえ、作品づくりにとことんこだわったこと、その中で、思ったことを自由に言える信頼関係が生まれたことなど、何事にも真摯に取り組み、より高きを目指すことのできる市高生らしい話を聞くことができました。

校長室からは、ダンス部が円陣を組み、「情熱、努力、友情、チームワーク、感動、Can do、We can do、We can do」をメロディにのせて気合いを入れてから練習に臨む姿を毎日のように目にしています。「感動」に「Can do」を掛け合わせているのは、奇しくも1学期の終業式で皆さんに話した植松努さんの『感動！』の意味は『CAN DO！』という言葉にも通じます。

市高生の皆さん、自分の力を信じ、仲間とともに「We can do！」の精神で、自分の可能性をどんどん切り拓いていってください。2学期も皆さんの活躍に期待し、心から応援しています。



受賞後の記念写真